乾隆帝の南北兩路平定

十九年所部を率ゐて清國に奔り、具さに伊犂の取るべきを陳ず。帝大に喜び、翌二十年班弟を定北將軍に、永常を定西將軍に任じ、兵を兩路より進め、驀然伊犂を攻略す、諸部風を望んで來り投じ、南北兩路、又に血ぬらずして平定せしが未だ幾許ならず、阿睦爾撒納、伊犂に據りて叛す。帝其の德を以て懷くべからざるを見、更に將軍成衮扎布に命じて北路より進み、準噶爾を剿討せしむ

準噶爾の滅亡

會、準噶爾諸部相呑噬し、且つ痘疫大に行はれ、死者相踵ぐ。是に於て兆惠長驅して進み諸部盡く潰へ阿睦爾撒納奔りて哈薩克部に投ず。兆惠其の副將富德と兩翼を張り、兵を分つて伊犂に進み、斬殺屠戮、殆んど準噶爾族を殲す。而して兆惠尚ほ一軍を派し、烈しく阿睦爾撒納を追ひて、吉爾幾思曠原に出づ、哈薩克、吉爾幾思之に抗せしも、清兵悉く擊破し、直に其の牙帳に逼る。阿睦爾撒納遂に露西亞に逃れ、後痘疫を患ひて死す。

大小湖查の叛

初め清兵伊犂に入るや、大小の湖查（ホッチャ）（波斯語にて即ちマホメットの後裔の義猶ほ君主と云ふに同じ）を釋し、大湖查布那敦（ナトン）は之を葉爾羌に歸して其の舊部を統べしめ、小湖查霍集占（ホッチチャン）は、伊犂に留めて回民の事を掌らしむ。然るに阿睦爾撒納の變、霍集占衆を率ゐて彼を助けしが